

令和4年4月19日

居宅介護支援事業所 管理者様

神戸市福祉局ひきこもり支援室
一般社団法人神戸市ケアマネジャー連絡会

神戸市におけるひきこもり状態にある方の相談・支援に関する
アンケート（介護支援専門員向け）へのご協力御礼ならびに結果報告について

神戸ひきこもり支援室及び神戸市ケアマネジャー連絡会では、令和3年10月20日（水）から11月19日（金）にかけて、要介護者と同居するひきこもり者の実態把握を行い、今後のより良い世帯支援及びひきこもり当事者への支援につなげるため、別紙の通り「ひきこもり状態にある方の相談・支援に関するアンケート（介護支援専門員向け）」を実施致しました。

各居宅介護支援事業所に所属の介護支援専門員の皆様には、お忙しい中、アンケートのご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

この度、アンケート結果の報告書ができあがりましたので、別添資料にて報告させていただきます。

頂戴した貴重なご回答、ご意見につきましては、今後のひきこもり支援など神戸市施策の参考とさせていただきます。

【問い合わせ先】

（ひきこもり支援全般に関すること）

神戸市福祉局ひきこもり支援室

TEL：078-361-2571

E-mail：hikikomori_shien@office.city.kobe.lg.jp

（本アンケートに関すること）

一般社団法人神戸市ケアマネジャー連絡会

TEL：078-362-6222

E-mail：info@kobe-caremane.net

※業務時間：月・水曜日 10時～16時

1. 本アンケートのテーマ

「神戸市におけるひきこもり状態にある方の相談・支援に関する（介護支援専門員向け）アンケート」

2. 本アンケートの目的

現在、日本における高齢者問題として「介護」問題が問われて久しい中、当事者である高齢者が中高年層の子ども世代を支える「8050問題」が新たに社会問題化してきました。

その「50世代」には、統合失調症をはじめとする精神疾患を有する者、経済的な困窮から親と同居する者など多様な問題を抱えた状況が確認されています。一方、具体的な病気や理由が明確になってはいませんが、長くひきこもりとなり高齢の親が子を支えるケースも報告されるようになっていきます。

内閣府が平成27年度と平成30年度に行ったアンケート調査の結果によると、引きこもり状態にある方は、全国で54.1万人、この数字を神戸市の人口に当てはめた場合、6,600人と推計されます。

しかし、その実態はつかめておらず、いまだ相談につながっていないひきこもり状態にある方やその家族への啓発が必要となっています。

そこで、介護支援専門員が担当する要介護者と同居するひきこもり者の実態把握を行い、今後のより良い世帯支援及びひきこもり当事者への支援につなげることを目的に、当該アンケートを実施することとしました。

3. 実施者

神戸市福祉局ひきこもり支援室及び一般社団法人神戸市ケアマネジャー連絡会

4. 母集団

神戸市内の居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員

5. 調査方法

神戸ケアネット及び神戸市ケアマネジャー連絡会ホームページによるインターネット回答

6. 調査期間

令和3年10月20日（水）～令和3年11月19日（金）

7. 対象モニター数

約900名（令和3年度概算値） 回答者数 115名

回収率12.77%

別添資料

令和3年度

神戸市におけるひきこもり状態にある方の相談・支援に関する(介護支援専門員向け)

アンケート報告書

令和4年3月31日

一般社団法人神戸市ケアマネジャー連絡会

アンケート調査結果

テーマ	神戸市におけるひきこもり状態にある方の相談・支援に関する (介護支援専門員向け) アンケート
調査方法	神戸ケアネット及び神戸市ケアマネジャー連絡会ホームページ によるインターネット回答
調査期間	令和3年10月20日(水曜)～11月19日(金曜)
対象モニター数	約900名(令和3年度概算値)
回答モニター数	115名(回収率12.8%)

【調査結果概要】

アンケート集計

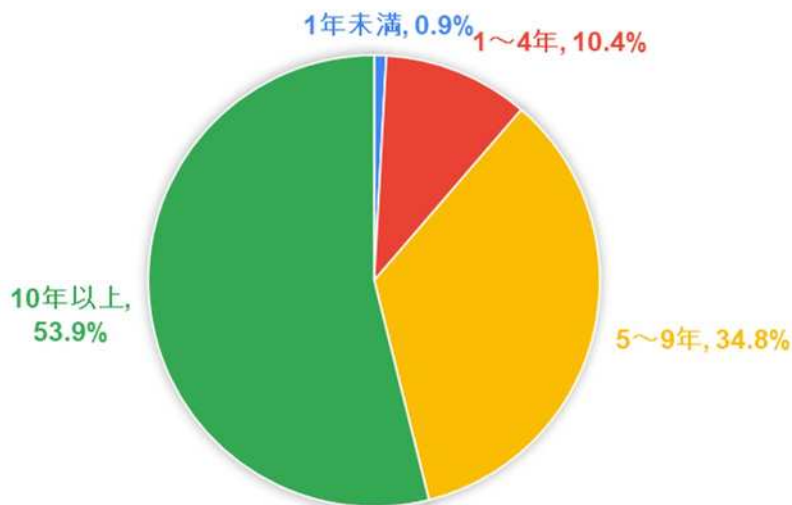
回答者所属区

東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	回収数
17	7	11	11	18	11	11	15	14	115
14.8%	6.1%	9.6%	9.6%	15.7%	9.6%	9.6%	13.0%	12.2%	n/115
1.9%	0.8%	1.2%	1.2%	2.0%	1.2%	1.2%	1.7%	1.6%	n/900



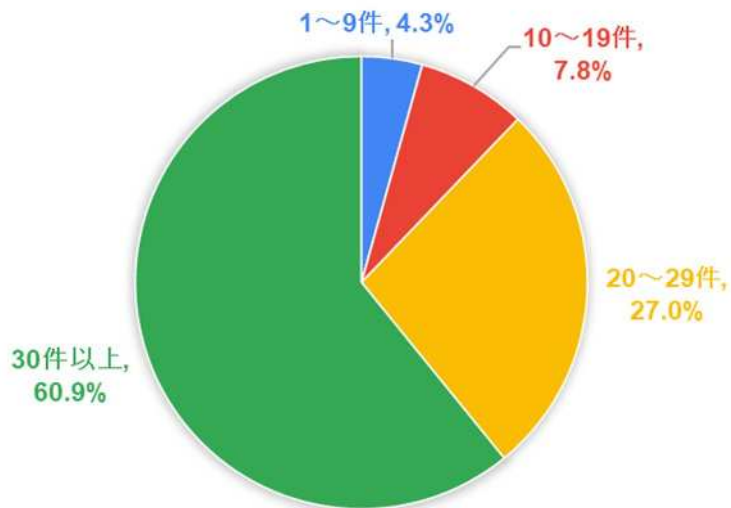
業務経験年数(トータル年数)

1年未満	1～4年	5～9年	10年以上	回収数
1	12	40	62	115
0.9%	10.4%	34.8%	53.9%	n/115
0.1%	1.3%	4.4%	6.9%	n/900



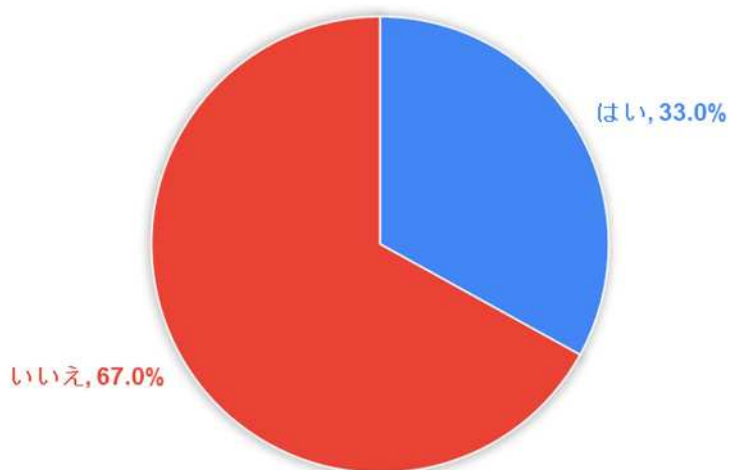
担当ケース数

1～9件	10～19件	20～29件	30件以上	回収数
5	9	31	70	115
4.3%	7.8%	27.0%	60.9%	n/115
0.6%	1.0%	3.4%	7.8%	n/900



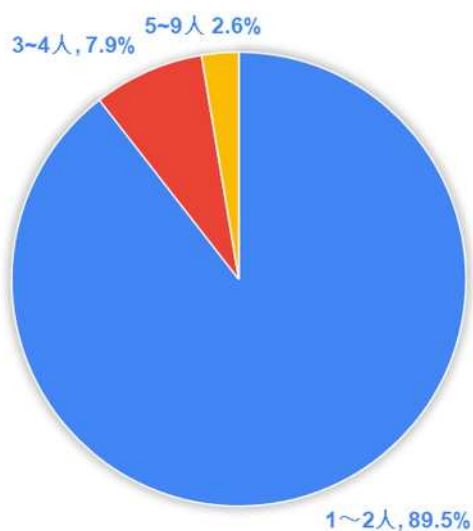
問1: 直近1年間(令和2年10月～3年9月)において、あなたの担当ケースの同居者にひきこもり状態にある方がいることを把握しましたか。

はい	いいえ	回収数
38	77	115
33.0%	67.0%	n/115
4.2%	8.6%	n/900



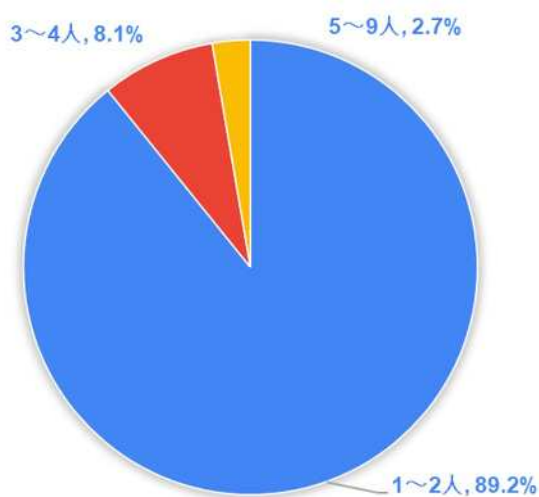
問2: 直近1年間(令和2年10月～令和3年9月)において、ひきこもり状態にある方を把握した人数(実人数)を教えてください

1～2人	3～4人	5～9人	計
34	3	1	38
89.5%	7.9%	2.6%	n/38
29.6%	2.6%	0.9%	n/115
3.8%	0.3%	0.1%	n/900



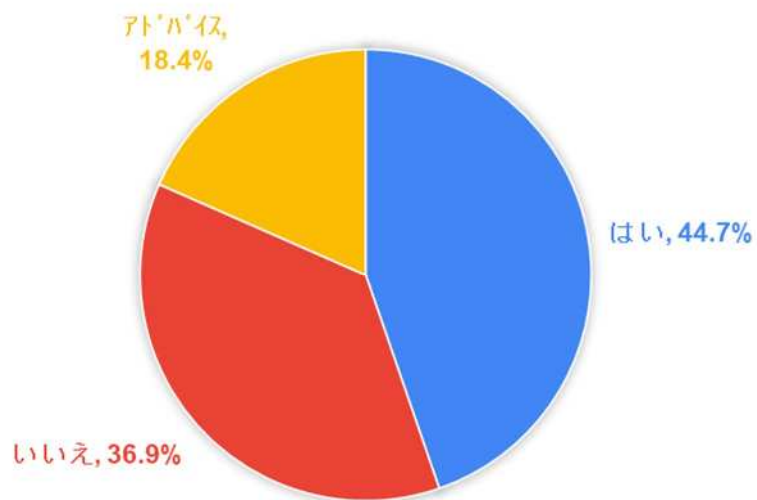
問3: 問2の回答のうち、ひきこもり状態にある概ね40歳以上の方を把握した人数(実人数)を教えてください

1～2人	3～4人	5～9人	計
33	3	1	37
89.2%	8.1%	2.7%	n/37
28.7%	2.6%	0.9%	n/115
3.7%	0.3%	0.1%	n/900



問 4: ひきこもり状態にある方を把握した際に、ひきこもり支援室へ相談するようアドバイスをしたり、あなたが関係機関に相談したりしましたか

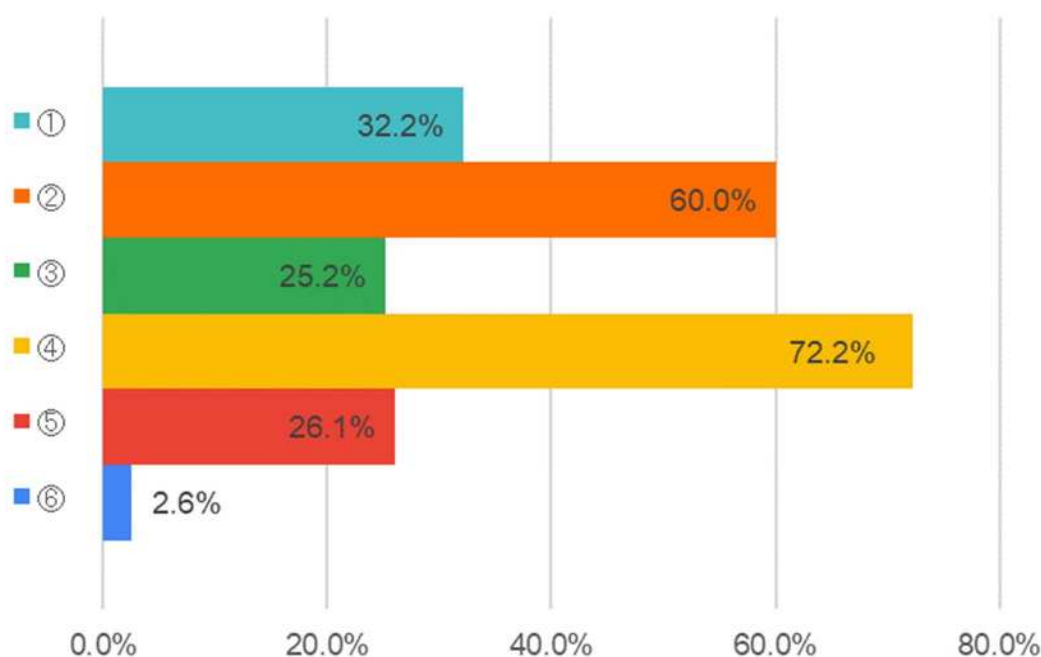
はい	いいえ	アドバイス	計
17	14	7	38
44.7%	36.9%	18.4%	n/38
14.8%	12.2%	6.1%	n/115
1.9%	1.6%	0.8%	n/900



問 5: 中高年のひきこもり状態にある方を高齢の親が支える「8050」ケースの支援にあたり、課題と感じていることについてお伺いします (複数回答・3つまで選択可)

- ① ひきこもり支援の知識や技術を有していないため、適切な対応がわからない。
- ② 相談・支援に至るまで長期間経過していることが多く、対応が難しい。
- ③ ひきこもりの支援において連携すべき関係機関がわからないため、相談に繋げることができない。
- ④ 担当ケースから相談があっても、ひきこもり本人が相談・支援を望んでいない。
- ⑤ 身近な地域にひきこもり支援の社会資源(居場所や家族会等)がない。または知らない。
- ⑥ 特になし。

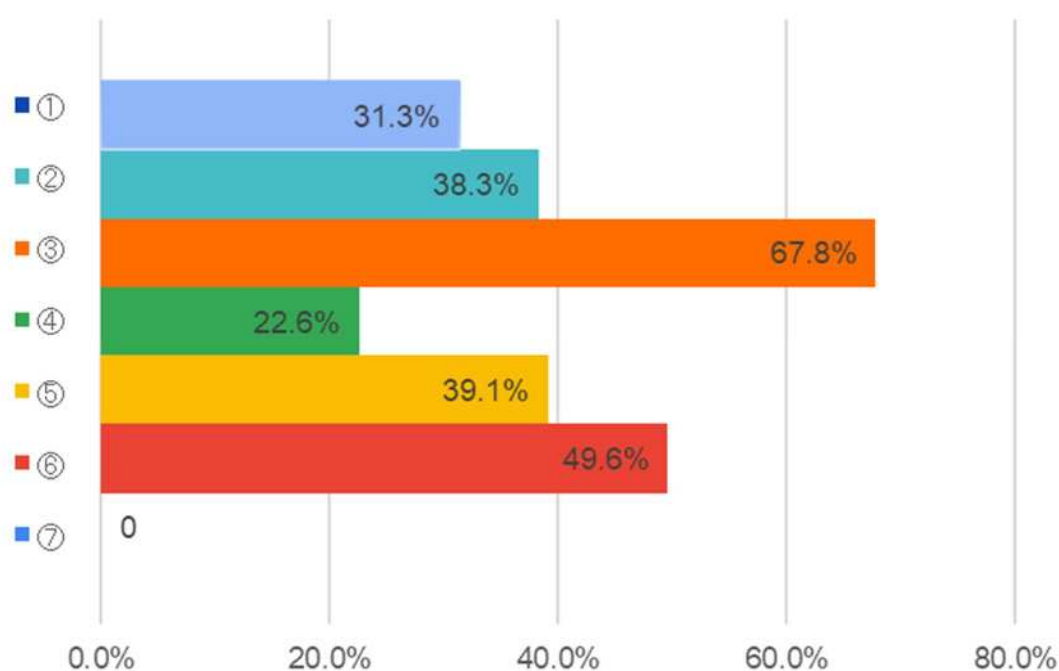
①	②	③	④	⑤	⑥	回答数
37	69	29	83	30	3	251
32.2%	60.0%	25.2%	72.2%	26.1%	2.6%	n/115



問6:あなたがひきこもり状態にある方への相談・支援をさらに充実させていくために必要だと思われるものを選択してください(複数回答・3つまで選択可)

- ① ひきこもりに関するケアマネジャー向けの研修会の開催
- ② 「ひきこもり対応マニュアル」などの作成
- ③ ひきこもり支援室等への連携方法の明確化
- ④ 個別ケース検討会等の充実
- ⑤ 家族がひきこもりを理解するためのパンフレット
- ⑥ 支援者用社会資源一覧の作成
- ⑦ 特になし

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	回答数
36	44	78	26	45	57	0	286
31.3%	38.3%	67.8%	22.6%	39.1%	49.6%	0.0%	n/115



問7:あなたが地域で連携して、ひきこもりの状態にある方に対応することができた事例、または対応が難しいと感じた事例がありましたら、その事例概要を教えてください

○対応することができた事例 … 8件

- ・ 障害者手帳を取得し、障害福祉サービス等の障害者支援と連携することができ、徐々に外出機会が増加した。
- ・ 利用者本人への支援を通じて、ひきこもっている子にも打ち合わせに同席していただき、親亡き後の将来的な話もできるようになってきた。
- ・ 障害者施策の制度説明を行い、支援に繋げ、自立に向けて転居の準備を行っている。
- ・ ひきこもり本人の自覚がない場合、家族の理解が鍵になると考え、地域包括支援センターとも連携し、新たな支援者に繋ぐなどした。 等

○対応が難しいと感じた事例 … 19件

- ・ 本人（や家族等）がひきこもりを隠そうとするため、踏み込めない雰囲気がある。
- ・ 利用者の子がひきこもりで、他者とのコミュニケーションがとりにくく、利用者が施設入所したため、残された子について行政に対応依頼した。
- ・ 利用者が亡くなったあと、ひきこもっている子と関わるものがなくなってしまい、その後どうなったかは気になっている。
- ・ 利用者の子がひきこもりだが、そのことを話題にすると利用者との関係が悪くなりそう。父親と母親で考え方に温度差がある。親の意識改革が難しい。 等

問8:ひきこもり支援についてのご意見がありましたらご記入ください

- ・ 意見は、33件あった。
- ・ 具体的な意見は以下のとおり。

(具体的な意見)

- ・ 本人が社会資源の利用を拒否している場合、支援に繋がたくてもできない。本人の意識を変え、気力と行動力を引き出すには多くの時間が必要。また、対話ができるまで時間がかかるが、根気よく声かけしていく必要がある。本人も家族もひきこもりと決めつけられることを望んではおらず、時間をかけて支援のネットワークを築いていきたい。
- ・ 家族がひきこもりを理解するためのパンフレットを利用して会話のきっかけにしたい。
- ・ ケアマネジャーが家族まとめてサポートするには限界がある。家族からのひきこもりに関する話の傾聴はできるが、対応の判断までは難しい。
- ・ ひきこもりへの支援は本人だけでなく家族のひきこもりに対する理解を深め、家族とともに支援していくことが必要。生活環境や育ってきた環境から現状を隠す傾向にあり、支援者との信頼関係作りが重要と思われる。家族が抱える問題に第三者が介入することの困難さがある。 等